

事業名

「地域人材の力をいただき、協力し合える心豊かな子どもを育てよう。」

目標

地域の教育力を導入・活用することで子どもの学びを一層豊かにする。
地域の大人と子どもがともに学び、ともに感動できる地域の取組

1. 取組の視点

本校区には様々な知識・技能を持ち、学校・園に協力的な人材が多く在住している。この方々の協力を得て、子どもたちに豊かで価値ある体験を積むことができるようにしたいです。

本年度も昨年に引き続き、子どもたちが「奈良の文化・伝統のよさを知ること」、「科学への関心を高めること」、「体力・健康を増進・向上させること」をテーマとして事業を行いました。

また、中学校の吹奏楽部の演奏や、演奏家を呼んで行うコンサートなど、親子や家族とともに感動を分かち合えるような場を持つ取組も進めました。



歴史ウォーク 佐保台小学校を出発

2. 取組の概要

「奈良の文化・伝統のよさを知ること」及び「体力・健康を増進・向上させること」として、本校区の近くにある奈良時代の3人の天皇陵等を巡り、奈良北町の般若時などの社寺や多聞城を訪ねる「奈良きたまちウォークラリー」を実施しました。参加者は150人にのぼり、奈良観光ボランティアガイドの会〈朱雀〉の協力や県立平城高等学校の教育コースの生徒の応援も得て実施しました。

「科学への関心を高めること」としては、各地域の夏祭りで地域の科学愛好家による「おもしろ科学実験教室」を開催、幼児や児童が年齢を超えて一緒に参加し、地域の方々と子どもたちのふれあいの場となりました。また、小学校への科学実験の出前授業などを行い、中学校も、高校の理科

の先生を招いて小学校の取組に連続する内容で普段の理科室ではできない実験を経験し、授業で学んだことを実際に見て理解を深めました。

「親子や家族とともに感動を分かち合えるような場」として、盲導犬を連れた盲目の歌手を中心としたグループ「シャンテ」のコンサートを北部会館市民文化ホールで行いました。多くの親子連れや、子どもからお年寄りまで幅広い方々150人の参加を得て楽しいひとときとなりました。



「シャンテ」コンサート

3. 成果と課題

歴史ウォークやシャンテのコンサートの企画や運営を通して地域コーディネーターやボランティアの活動が活発化し、つながりが密になるとともに、支援者の輪が広がり、地域と学校・園との連携も進みました。また、本協議会の活動や地域コーディネーターやボランティアの皆さんの働きについても多くの方々に知っていただくことができました。

歴史ウォークには、根強いファンがいて、昨年の平城宮跡ウォークラリーから連続参加の方もおられました。この方々を学校と地域を結ぶボランティアに取り込み、活動を広げることができればいいと思います。これらの事業については、準備・運営等のノウハウや関係団体等とのネットワークが必要であり、年度ごとの経験を地域コーディネーターが引き継いでいくとともに、人のつながりづくりのために地域の人々への広報の工夫が求められます。

事業名

学び、挑み、輝け！平城東中学校

目 標

地域の人々や社会人から学ぶ機会を増やし、体験的な活動を充実させる。
生きて働く力を身に付け、その成果を地域に発信する。

1. 取組の視点

地域に住む、様々な経験や能力をもつ人々の力を活用し、子どもたちが社会につながる知識を得たり、体験的な活動を行ったりすることによって、生きる力、生きて働く力を身に付けられるように取組を進めてきました。1年生は、「働くこと」



について、2年生は、職場体験学習等による「職業観・勤労観」について、3年生は、修学旅行に

向けて、「平和や人権」について考える等をテーマとして調べ学習や体験活動等を進めてきました。

これらのテーマに迫るとともに、学習を通して様々な人と出

会い、人に対する思いやりにあふれた心を培い、主体的に考え行動できる力を身につけさせたいです。

また、みんなで力を合わせて「かたちあるもの」を創り上げること、そして創り上げたものが人の心に触れ、感動を伝えるなど、心に残る価値ある体験をさせたいです。普段の教科学習や特別活動、学校行事等で得た知識や技能を基にして、学年全員が力を合わせて総合劇の創作をしたり、保護者や地域の方々が見守る中、学年合唱等で力を出し切って演じたりすることを通して自信や充実感をもたせたいです。

このことを進めるための環境整備のひとつとして、大型長尺紙プリンタを協議会で購入し、学校行事等に役立てました。行事等については、これまで以上に広報することにより、地域と学校との連携、協力関係を一層強いものにしていきたいです。

なお、このプリンタは、校内だけでなく、地域の取組にも活用されています。

2. 取組の概要

本校の文化発表会で行う「学年劇」は、3年生の普段の学習や修学旅行などの行事で得た知識・技能を総合し、全員の力を結集させて総合劇としてまとめるものです。本年度も、修学旅行で平和の大切さや沖縄の文化を学んだりした経験や学習した内容に基づいて、壮大な総合劇を創り上げました。

台本を検討するチーム、音響効果、舞台美術、大・小道具、そして劇を演じる出演者の他、ダンシングチーム、合唱、演奏チームが組織され1時間あまりに渡る劇が上演されました。これらの協力・協調して行う作業を通して、生徒は大きく成長したものと思います。会場の体育館には、保護者や地域の方々が集まり、お褒めの言葉をいただき、充実感をもって行事を終えることができました。このことが生徒の成功体験となり、その後の学習にも好影響をもたらしています。



3. 成果と課題

毎日の授業や、学級での取組の積み重ねが「総合劇」という形にまとまり、ともに感動を分かち合える場面をつくることができました。中学卒業後も同じ地域で暮らす生徒どうしが仲間の絆を保つことを期待します。

今後さらにテーマを深く追究できるよう、効果的な指導を考えていきたいです。

事業名

心豊かに いきいき 輝く 朱雀っ子

目 標

「人」「もの」「事」「地域」との様々な出会いや体験を通して、感性豊かな心を育てる。

1. 取組の視点

①読書への関心意欲を高める環境作り

昨年同様に、図書室で本を読む時間を設けており、低学年では地域の協力を得ながら読み聞かせを行っています。そのせいか本好きの子どもたちも増え、楽しみをもって図書室を利用してくれています。しかし今以上に読書量を増やし、子どもたちが幅広く、深く知識を習得できる学校図書館へと変貌させていきたいと感じています。そのため図書室の整備と充実に力を注いでいきました。

②地域との連携

さまざまな事柄を通して、地域の人との交流を進めていき、多くの方々によって学校が支えられていると感じられる学校づくりを目指していきました。

③様々な出会いや体験活動の重視

本校区は、自然と触れ合うことがやや少ない状況にあるために、校内で花を育てる機会を多くもたせることで、やさしい心、思いやりのある心、ひいては豊かな心へと進化させていきたいと考えました。今年度は、全校でパンジーを植えました。また、多くのゲストティチャーに来ていただき、経験豊富な人の話を聞くことで子どもたちに希望や夢を与えることができると考えました。そこからキャリア教育にもつなげていきたいと考えました。

2. 取組の概要

図書室としての環境を充実させていくため、蔵書を増やし、明るく落ち着いた読書の場として机や本棚の位置を根本から考え直していただきました。また、図書室のシステム化も完了し、奈良市の図書館とも連携が開始しました。

また、平城東公民館の自活サークルの作品を本校の「朱雀ギャラリー」で展示を行い、子どもたちや保護者の方々が積極的に鑑賞してくれました。反対に、児童の作品を公民館に展示していただき地域の方々に見ていただくことができました。地域の方から、「頑張って描いておられますね。」とおほめの言葉もいただきました。



自然環境について考えさせるために、近畿大学の北川先生から5・6年生

と地域・保護者の方に「ニッポンバラタナゴの生態系」について出前授業をしていただきました。また、平城ニュータウンのおもしろ理科実験グループの方々によって理科の発展学習等行っていただき、自然科学のおもしろさを教えていただいています。読書への関心を高めるために低学年に月1回木曜日に、地域の方による読み聞かせをおこないました。その他、マジックショーやどろだんご作り、ワラビもち作り等様々な体験ができました。これらを通して、なかま作りも学んでくれたと思っています。

3. 成果と課題

地域や保護者の協力により学校支援ボランティアに取り組み図書室や校舎周辺など環境面が整い充実してきました。今後は、より広く、より深く子どもたちが地域の方々と交流や連携を経験し、地域のなかま作りを深めていきます。

事業名

地域と共に笑顔いっぱい元気いっぱい佐保台っ子

目標

児童一人一人に様々な感動体験を通して豊かな心を育む**1. 取組の視点**

学校・家庭・地域が一体となって子どもの教育にあたるとともに、子どもたちに感動体験を通して魅力ある取組を行いたいと考えました。そして、地域や親子とのふれあいを支援し、地域のすばらしい人材を広い意味で活用し、連携を深めました。こういったなかで、地域に目を向け、自分たちの郷土を愛する子どもたちが育つものと思います。また、これらの活動を通して今日的な課題である情報・福祉・環境・国際理解教育の推進にも力を注いでいき、子どもたちに豊かな心を育みたいと考えています。

2. 取組の概要

具体的な活動として、環境美化活動、図書館活動、パソコン学習、福祉体験学習を地域の方やゲストティーチャーの方に支援をいただきながら進めました。

① 環境美化活動

校内の環境美化活動の一環として、環境委員会が中心となり栽培活動に取り組みました。花の苗植や草刈り、草引きなどの作業に汗を流し、稲やイモの栽培で収穫の喜びも体験することができました。

校外の活動として、校区にある平城山電車区の美化運動に協力し、毎年2年生が花の苗植に出かかっています。

**② 図書館活動**

地域の図書ボランティアの方の協力を得て、子どもたちの読書活動を推進しました。特に図書室の環境作りやブックトーク、絵本の読み聞かせにアドバイスをもらい、図書委員会の活動が充実したものとなりました。また、ゲストティーチャーを招き、低学年高学年別に読み聞かせを行い、相手を思いやる深い心と生きる力を育みました。

**③ パソコン学習**

パソコンの専門家の支援をいただき、全学年でICTを活用した学習を進めることができました。低学年は「お絵かきや簡単なお手紙作り」、中学年は「ローマ字打ちで名刺や自己紹介文」、高学年は「パワーポイントでプレゼンテーション」等、系統立てたパソコンのスキルを学び、児童のプレゼンテーション力の向上を図ることができました。

④ 福祉体験学習

福祉に関わる学習を関係諸機関等の協力を得て行いました。特に聴覚障害の学習では、聴覚に障害を持っておられる講師の方から直接お話を聞くことができ、より深い学習ができました。

3. 成果と課題

様々な活動や体験を地域の方の支援を得ながら進めることができ、教室だけの学習ではなかなか得難い多くの学びがありました。このような取組は、継続的に進めてこそさらに大きな効果が表れてくるものと思います。また来年度も活動内容を工夫し継続していきたいと考えます。

事業名

地域へ発信！つながる左京

目標

地域の方々と交流・協働の機会をもち、学校と地域が連携し心豊かな子どもを育成する。

1. 取組の視点

次代を担う子どもたちが、夢と希望をもって、いきいきと生活を送ることができるようにするためには、学校が地域と連携し、地域の教育力や教育資源をより一層活かした教育活動を展開するとともに、地域の人々の交流の場（地域コミュニティの拠点）として機能することが求められています。また、本校区は新興住宅地であるがゆえに、子どもたちにこの左京地区で学び育った「ふるさと左京」を感じられる取組も求められています。そこで、子どもたちの豊かな人間性は、地域の方々と様々な交流や協働の機会をもつことによって培うことができると考え、「地域へ発信！つながる左京」のテーマで取り組んでいきます。

2. 取組の概要

地域のグリーンサポーターの方々が、「左京の森」を地域住民の集い、交流の場にしようとさまざまな活動をされています。6月、3年生の児童



が、左京の森の一角の小学校用花壇に、グリーンサポーターの方々に教えてもらいながら、季節の花を植えました。また、11月のクリーン左京（万年青年クラブの方々と行う校区の清掃活動）では、一緒に花の苗やチュリーップの球根を植え、左京の森が地域の方々との交流、協働の場であることを体感しました。

今年で5年目を迎え、左京地区地域交流最大の行事として定着した「左京夏祭り」に、平城ニュー

ータウン楽しい理科実験研究会の先生に来ていただき、「おもしろ理科実験教室」を行いました。



た。普段の理科の授業にはないおもしろい実験ばかりで、子どもたちは興味深そうに取り組んでいました。6年生の理科の授業にも来ていただき、高学年向けの「おもしろ実験教室」を行いました。

読書活動の充実を図るために、児童用図書を購入し、地域のボランティアの方々に来ていただき、全学級でお話（読み聞かせ）の会を行いました。また、名人さん大会、被爆体験講話、障害者コーナーの話、車椅子バスケットボール、世界遺産学習などに、地域の先生を招請し学習しました。昼休みに子どもたちと地域の方々がふれあう活動（ふれあい夢スクール）も計画的に実施しました。

3. 成果と課題

「地域へ発信！つながる左京」のテーマの下、地域の方々とともに行う活動や地域の方々から学ぶ活動を進めてきました。その結果、子どもたちに「ふるさと左京」の心が生まれ、学ぶ楽しさや成就感を体感させることができました。

また、(地域の方への) 学校評価アンケート「子どもたちは、地域の諸活動や諸行事に参加している。」の項目では、肯定回答が前年度比+10.8ポイントの評価を得ました。次年度は、より多くの地域の声を反映させながら事業を展開し、自分たちが生まれ育った地域に自信と誇りをもつ子どもの育成に努めていきたいと考えています。

事業名

心身ともに健やかで心豊かな幼児を育てる

目標

夢中で遊び、感じる心を豊かにしていく。

絵本や物語音楽鑑賞などに親しみ、さまざまな人と心を通わす体験を積み重ねる。

1. 取組の視点

人格形成の基礎が培われる幼児期に、夢中で遊び感動体験を味わうことで感じる心が育ち豊かな心が育まれます。本事業は、「心身ともに健やかで心豊かな幼児を育てる」と設定し、子ども達が、さまざまな人と関わり、心を通わす体験を積み重ねます。

- ・ 地域の名人さんと触れ合い、感じる心を豊かにしていく。
- ・ 体を十分動かして遊び、やる気やチャレンジする心をもって意欲的に遊ぶ。
- ・ 幼稚園、小学校が連携し、地域の方や保護者の協力を得て楽しい園作りに努める。

2. 取組の概要

〈ようこそ地域の名人さん〉

オカリナ演奏、音楽演奏、なんきんたますだれ、ギター演奏の名人さんを招いて、園児と一緒に歌ったり音楽を聞いたり、楽器を触らせてもら



ったり不思議でわくわくするような演技をみせていただき、共に楽しいひと時を過ごしました。

〈お話しはじまるよ〉

朱雀お話の会、腹話術、保護者による絵本の読み聞かせをしていただき、話を聞く態度が育ち、お話の世界に心を膨らませていきました。嬉しい気持ちから、今度はみんながお話を届けようと、劇遊びを地域の方々に見ていただいたり、園児達が手作りの絵本を作り、友達や地域の方に嬉しそうに読んで見せたり、いきいきと生活する姿につながっていきました。



〈親子でリズム体操〉

土曜参観に、リズム体操の講師先生を招き、親子でリズムカルな動きや楽しい運動遊びをして触れ合いました。保護者は園児と楽しさを共有したり、主体的に遊びに取り組む園児の様子に成長を感じ、子育て支援につながりました。



〈もりのおうちができたよ〉

ボランティアで、手作りのアスレチックを作っていた。園児は、心をワクワクさせて遊び、この場に自然と友だちが集まり友だち同士が触れ合い、繋がる場になりました。



〈環境ボランティアさんありがとう〉

コーディネーターさんを中心に、環境ボランティアの方による幼稚園、小学校の草刈、剪定、側溝の清掃活動の他、遊具のペンキ塗りにも協力していただきました。「遊具が新しくなったね。」と喜び、のぼり棒では、「黄色までのぼれたよ。」「次は緑までいくよ。」と、意欲をもって挑戦して遊ぶ姿につながりました。



3. 成果と課題

地域の教育力を生かし、本年の事業をさらに継続して子ども達の笑顔がたくさん見られるよう取り組みます。また、保護者や地域に園生活の様子や子どもの育ちを感じられるように保育参観、懇談、たよりを通して発信していきます。

事業名

わくわく・どきどき・心豊かに育ち合う楽しい幼稚園

目 標

心を動かす体験活動を通し、生き生きと生活する心豊かな幼児を育てる。

1. 取組の視点

地域全体に、子どもたちをみんなで見守り育てていこうという熱意が感じられます。核家族や少子化が進む中、家庭では、習い事や屋内で遊ぶことが多く、自然体験や生活体験、友達との戸外遊びなどの直接体験による心揺さぶられる経験が減少しているように感じられます。

本年度は、認定こども園として幼児教育と0歳から5歳までの子育て支援の拠点として開園し、人間形成の基礎となる幼児期に心を動かす感動体験を計画し、心豊かに生き生きと活動する幼児を育てていきたいと考え取り組みました。

2. 取組の概要

〈奈良のよさに触れる、出会い、感じる活動〉

園外保育で、平城宮跡にバスで出かけました。

3歳児は、大極殿付近で、紅葉したサクラの葉やドングリを拾い、4・5

歳児は、朱雀門から大極殿まで歩き、秋の自然にも触れて遊び、お弁当を食べました。広々とした平城宮跡を五感で感じる事ができました。

〈心と体を鍛える体力づくりにつながる体験活動〉

「体力づくり教室」をゲストティーチャーを招いて行い、鉄棒や平均台で楽しい運動遊びを体験しま

した。発達段階に応じ、ぶら下がったり、回ったりし、事後も鉄棒に興味をもつ幼児が増え、遊びの中で挑戦し自信につながっていきました。

日曜参観には、保護者対象の教育講演会「毎日の生活が、子どもの心と体をつくっている。」と題し講師に山崎誠氏を招いて、幼児期に正しい基

本的生活習慣を身につけることの大切さを具体的にわかり易い内容で講演していただきました。

「みんなでカプラを使って遊ぼうの会」では、小学校の体育館で、幼児、家族みんなで楽しいカプラ遊びをしました。創造する力、つくりあげていく喜び、協力、達成感などを味わいました。



〈地域の方などと触れ合う、感動体験〉

「左京の森」で、地域の方々の協力を得て、土を入れ畑をつくり、サツマイモ、ダイコンなどの栽培をしました。見事な

サツマイモやダイコンができ、収穫祭をし、地域の方々を招待しました。自然に触れる感動体験となりました。ゲストティーチャーによる「絵本の読み聞かせ」「生け花」「お茶会」など心豊かに育ち合える機会を多くもつことができました。



3. 成果と課題

・地域の中で、いろいろな方々と活動を通して触れ合う感動体験を通して、心を動かして生活するいきいきとした子どもたちの姿が見られました。地域関係者、保護者、ボランティアの方々の協力を得ながら楽しんで取り組むことができました。

・3歳児から5歳児の発達段階を考えながら、様々な、体力づくり活動ができ、遊びにもつなげていくことができました。継続することで望ましい体力づくり、基本的生活習慣づくりにつながると感じました。